慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	失業救済施設に就いて（一）(特に英国に於ける失業救済を論ず)
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1922
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.16, No.9 (1922. 9) ,p.1291(87)- 1306(102)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19220901-0087

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

最新刊行圖書

農學博士 橋本傳左衛門著
農業政策綱要
（ポプリン裝釘上製）定價金參圓 內地送料金拾八錢

新進の農政大家たる著者が最新の研究に基き農業政策に屬する諸問題を解說せられたるものにして、近時喧しき小作問題の如きは著者の最も力を費せる所、斯界唯一の快著たり。

マスター、オブ、アーツ 松岡正男著
植民新論
（ポプリン裝釘上製）定價金貳圓五拾錢 內地送料金拾八錢

東京商科大學及び慶應大學等に植民政策の講座を擔任せらるゝ著者が、簡明を旨として斯學の要綱を論述せられたる良著にして資料鮮新、論議剴切、眞に新論の名に負かず。

ドクトル、デル、フィロソフィー 宇都宮鼎著
最新 **財政學綱要**
（總洋布裝釘上製本）定價金四圓 內地送料金拾八錢

歐洲大戰の結果は各國の財政事情に幾多の主要問題を湧出し、新奇の學說を喚起す。本書は眞に最新の研究に基く財政學の要綱を解說せられたる好參考書たり。

早大教授 北澤新次郎著
勞働經濟論
（ポプリン裝釘上製）定價金貳圓八拾錢 內地送料金拾八錢

工業經濟の骨子たる資本對勞働の諸問題を詳密に研究せられたるものにして所謂勞働問題に對する徹底的論策を含み、各種思想上の體系を說くこと明快を極めたり。

（東京仲猿樂神田町）**巖松堂書店**（振替東京六五六）

雜錄

失業救濟施設に就いて（一）

（特に英國に於ける失業救濟を論ず）

園乾治

一

失業は進歩の暗黑面をよく表はしてゐる。失業は自己の必要とするものを總て自ら生産する所謂自給自足の經濟社會には起らない。單純なる原始農業民の間にあつては、その生活を維持するに必要なる資料を、自己の土地に求めた。この場合に於いては殆んど或は全く失業は起なかつたであらう。然かるに現代の社會は、生産を營利の手段としてゐる。自己の生活を維持せんがために財貨の生産を企ることは例外であつて、殆んど總て生産したる財貨を販賣して、利潤を獲得することを目的とするものである。企業家は利潤を獲得することが可能である場合にのみ生産を行ひ、勞働を買入れる。利潤を獲得することが出來ない場合には、彼等は新なる企業を中止し、事業の規模を縮小し、生産を制限する。さうして勞働はその販路を斷たれる。失業は此處に原因するのであつて J. L. Cohen の謂ふが如く「現代の資本主義的生産時代の副産物であり、特色である」。(J. L. Cohen:—Insurance against Unemployment, p. 17)

失業は勞働者に對して最も嚴肅な、また最も恐怖すべき問題である。それは彼等の生存に最も大なる害惡を與へる。彼等の活氣、彼等の貯蓄、彼等の所有物件、彼等の家庭の幸福は、斷

えずこの失業といふデモークレースの劍によつて脅かされる。それは如何なる時に於いて、また彼等の力の及ばない原因によつて、彼等の頭上に墜ちて來るかも知れない。然かも失業は單に勞働者のみに危險な影響を與るものであると考へることは出來ない。それは最も紛糾した困難な社會問題を形成する。非常に多數のものが失業に遭遇し、呻吟し、公共の救濟を要求し諸文明國の決して蔑ろにするを許さない幼年勞働、婦人勞働、賃銀の低下、賣淫、飲酒等の問題を起さしめる。のみならず、これ等の大部分のものは「國民能率」(National efficiency) の發展を阻害する。それ故に合衆國の最高法院の Louis D. Brandeis は失業は「今日の產業上の害惡の最も惡く且つ最も普及せるものである」と謂ひ、(J. L. Cohen:—op. cit, p. 18) また I. G. Gibbon は「失業は現代經濟社會の根本問題の一である。多年の鬪爭によつて勞働者は自由を贏ち得た。しかしながら自由のみで彼等は生存し得るものではない。如何にして多年の努力の結果達成したる自由を犧牲とすることなくして、生活の保障を得べきであるか。——これが現在彼等の遭遇してゐる問題である。」(Gibbon:—Unemployment Insurance) といふことを述べてゐる。

失業の勞働者幷びに社會に及ぼす影響に就いては、既に十分なる觀察が試みられてゐる。長期に亘る失業は勞働者をして獨立の意氣を沮喪せしめ、また往々にしてその有する熟練を失はしめ、技倆の低下を來すことがある。さうして一度發生したる失業の現象が永續しない場合でも、それが頻繁に繰り返される場合には、勞働者の所得が不確實となるから、彼等の生活は著しく動搖せざるを得ないのみならず、精神的に不安の念慮を生ぜしめ、濫費の弊風を伴ふことになる。これを一般社會から觀れば、浮浪人、貧民の發生となり、社會はこれが救濟のために負擔を加重し、犯罪の增加を惹起し、社會の公安を害することになる。

かくの如く失業に基く諸々の困難は、既に多くの邦國に於いて注意せられた。けれどもその生產に對する影響に就いては、從來餘り注意を受けてゐない。勞働者は生產を增加せしむるあらゆる改良案に對して、失業するかも知れないといふ懸念から反對を企てる。機械に對する改良に掣肘を加へる。少數の熟練の技倆を發揮せしめるために工場內の勞働組織を改革することに反對する。科學的經營法は攻擊せられる。勞働組合は出來高拂の賃銀支拂法に對して戰鬪を敢てする。これ等の孰れの場合に於いても、反對の大部分は失業の懸念のために起るのである。さうしてその反對と懸念とは決して無理からぬことであつて、何人もこれ等の生產上の改善が、結局勞働者の利益となるものであるといふことを、勞働者に對して力說し得るものはあるまい。それ故に產業の生產能率を著しく增加しやうとするものは、先づ第一に勞働者に對する失業の厄災を、完全に除去しなくてはならぬことが明かであらう。要約すれば失業は一方に於いては勞働者の生活の壓迫となるものであり、社會の負擔を增加するものであるが、同時に、それにも劣らず生產の能率增進、將來の改善に對する一大障碍となるものである。(J. L. Cohen:—op. cit., p. 19)

二

英國に於ける失業の歷史は、一六〇一年に救貧法 (Poor Law) の發布があつたことから見て、少くともエリザベス女皇の時代まで遡ることが

出來やう。Cunningham は失業は十五六世紀の圍繞運動（enclosure movement）の結果であるとしてゐる。十八世紀に於いては經濟上の恐慌の度に、失業が必らず發生した。然し失業が救貧問題としてでなく、社會問題として認められるやうになつたのは、最近二十五年以來のことに過ぎない。Edward R. Pease は失業（Unemployment）といふ言葉の使用に就いてOxford English Dictionary の發行者が、一八九四年十二月の日印の引照が、最も古いといふことを敎えたといつてゐる。

米國に於いても最近百五十年の間、失業が記錄せられてゐたといふことはあまり知られてゐない。農業より工業へ推移した時失業が起り、利潤を獲得することが總ての動機となり、舊い產業上の傳統を基礎とする秩序に代るやうになつて、失業は愈々重大なる問題となつた。かの十八世紀の末葉にニューイングランドに工場制工業が移入せられ、此處に失業の發生すべき諸條件が完全に具はつたのである。

Mathew Carey が一八二九年にフイラデルフイアに於いて試みた「低廉なる賃銀に對する義戰（Crusade against Law Wages）」と題する演說の中に、次のことを述べてゐる。

「縫女は斷えず仕事のある時でさへも、その所得は生活を維持するに足らない。然かるにその仕事は非常に不安定なものであつて、屢々——或る時には一週間繼續して、また每週一二日位は非常に頻繁に——失業する。孰れの場合に於いても、仕事を探し求め、或は待つために、さうしてまた出來上つたものを屆けるために、少からぬ時間が費される」。

フイラデルフイアに於けると同じやうにボストンに於いても、失業は一大害惡であるやうに思はれる。

「屢々八九百の女子を雇傭してゐる一大裁縫工場に於いて、一八二八年には平均三百人の女子を每日雇傭したのであるが、數ヶ月間平均百七十人以上に出でなかつたことがある」。

といふことが當局に報告せられ、また一八一九年には Niles Resister が次の如く述べてゐる。

「フイラデルフイアに於いては每日二萬人の求職者があり、ニューヨークに於いては一萬人の男子有能者（able-bodied men）が職業を求めて市中を彷徨する。さうして若し之に職業を探してゐる女子を加へると、その數は決して二萬人を下らない。バルチモアに於いては殆んど一萬人のものが不安定な雇傭に從事してゐる。換言すればこの人々は事實上一定の職業に從事することが出來ないために、苦しんでゐるのである」。

然かるにこの問題が餘り世間の注意を喚起しなかつたのは、十九世紀の終まで英國に於いても、米國に於いても、失業者が彼等の眞の事情をよく公衆に知らしめることが出來なかつたためである。失業者は殆んど竊盜犯人と同じやうに視られてゐたのであつて、一七七六年にメリーランドの竊盜犯人（thief）は左の手にTの烙印を附せられ、失業者——即ち無賴（rough）浮浪人は、その肩にRの印を附せられたのである。（J. L. Cohen:—op. cit., pp. 19-21.）

失業の權利の存在することを十分に立證する證左も、同じく十九世紀に至つて見出される。工場生活の發展は、この問題を益々重大なものとするに至つたのである。英米兩國に於ける人口の都市集中の傾向は、失業者を小範圍に集中せしめ、彼等は容易に團體を組織することが出來るやうになつた。また彼等は劇的集會をなす

ことが出來、畫的行列をなし、公衆をしてこの問題の容易ならざることを知らしめるに必要であると考へる公開狀を、發行することも出來たのである。然しながら若しこの失業の危險が何等新しいものでないといふことを主張することが必要であるならば、四圍の狀態が變化してゐるといふことを許容しなくてはならぬ。一時代以前に於いては新產業、新開地が、職業を求め勞働せんとする人々を待つてゐたのである。各地の大都市に於いては、勞働者のための準備基金が、鑛業その他の產業に於ける勞働者の不斷の需要を充すために存在したのである。かくの如き事情の下に於いては、職業を求むる人々は常にその目的を達し、或は少くとも時々短期に起る失業の打擊に堪えることが出來る、と多數の人々は信ずるであらう。それ故に失業者は怪訝に思はれる。さうして彼は放埒漢、「怠けもの」（"won't work"）であり社會の寄生虫であるとして取扱はれる。この見解は今日の勞働者に對しても、合致し、適用せられるのであるが、思慮あるものはこれに贊成しない。今日の失業者は單にかくの如き怠惰者のみではない。（この點は後段に再び論及する。）熟練にして堅實なる意思を有する勞働者が、麵麭を得る行列に立ち、失業者の示威行列に加はるものゝ大部分を示めてゐる。然し公衆の面前にその貧窮せることを示すものは、沈默して社會に對する怨嗟の意を强める嶮惡な數萬のものに比して、遙かに少數であることを知らなくてはならぬ。

失業は經濟界の好況時代にのみあるのではない。平時の最も產業の多忙なる時期に於いても猶ほ失業の發生を見る。さうして周期的に現はれる不況時代に於いては、それは實に夥しい多數に上る。また毎年一定の時に產業が有效的に需要しない、所謂豫備軍となつてゐる多數の勞働者の鋭い叫び聲を耳にするのである。大戰の終熄と共に、これまで動員せられてゐた兵士及び軍需品の製造に從事してゐた勞働者は、失業の運命に逢著したのであつて、更らにこの問題は重要性を加へ、且つ解決の容易ならぬものとなつたのである。

平年に於いても殆んど冬季毎に、英米の大都市に於いて、「働く權利」「生くる權利」「一日の勞働に對して一日の食糧を得る權利」を要求する長旗旆を翳した行列を街路に見出さないことはない。かくの如き場合には、政府當局または慈善團體に對して、失業者のために職業を與へまたは救濟をなすべきことを要求するやうになる。然しその企圖は多く成功を贏得てゐない。失業者のために公共團體が事業を開始し、または擴張することは、總ての失業勞働者を悉足せしむることが出來ない。救濟基金は多くの失業勞働者を救濟するに足らぬやうになつた。貧窮は多くの勞働者の運命であり、犯罪と害惡とは著しく增加する。（J. L. Cohen:—op. pp. 21-22）

三

然からば失業者の實數は幾何であるか。不幸にして失業統計の完全なるものは、未だ作成せられてゐない。然しながら失業者側から提出せられた數字の信憑するに足らざるものは別として、英國の勞働省から刊せられる The Labour Gazette には、正確に近い有益なる失業統計を載せてゐる。この The Labour Gazette の外にも多數の報告がないではないが、その報告は不正確であり、重複した點が頗る多い。休戰以後に實施せられてゐる失業者に對する惠與金制度によつては、失業者の數が幾何に達してゐるかを知ることは出來ない。何となればこの制度によ

る失業者の計算は、この恩惠に浴する資格に缺ぐるところがある多數の失業者を看過してゐるからである。(Percy Alden:—"Unemployment," in "Labour and Industry" pub. by University of Manchester)

遮莫、The Labour Gazette の失業統計の中には、

（一）失業の場合の用意を有し大凡百五十萬の勞働者を包括する勞働組合の毎月の報告。

（二）最も重要なる產業に於ける雇傭者數、支拂たる賃銀の合計額に關する傭主の報告。

（三）各種の職業を包括する地方通信員及び職業通信員の報告。

（四）求人者、就職者及び失業者數の毎月末に於ける雇傭係員の報告。

（五）失業者收容所に宿泊せる被保險勞働者數、失業給付及び失業期間に關する國民健康保險法管理者の報告。

を包括してゐる。然して最後に擧げたる國民保險法による被保險者は、一九二一年二月二十五日現在に於いて、その總數一千二百萬を算し、失業統計の資料として最も善きものである。

勞働省に於いて試みられたる表解は、雇傭市場の趨勢を示し、他の年代と容易に比較して檢することが出來る。それ故にこれを一瞥すれば、此處で再び失業は勞働者を不斷に壓迫する重大事件であることを縷述する必要はあるまい。今最近の數字を掲ぐれば次の如くである。(J. L. Cohen:—op. cit., p. 23)

年代	失業者數	系統的に勞働時間を短縮せられたる者の數
一九二〇年十二月三十一日	六九一、一〇三	四四六、四六六
一九二一年一月三十一日	九七七、三六六	六三七、六八八
一九二一年二月二十五日	一、一四五、七一〇	七四三、五三八
一九二一年三月二十四日	一、三五五、二〇六	八三八、六六一

一九二一年四月二十九日　一、七九九、一四二　一、〇四七、三二七

注意。右の表中第二行は一九二〇年一月三十一日とあるが恐らく一九二一年一月三十一日の誤植であらうと信じ本文の如く訂正した。また摘要第二段「系統的に勞働時間を短縮せられたる者の數」と稱するは、不況のために、失業保險法の下に於ける給付を受くる權利を與ふるが如き系統的基礎によりて、勞働日數の短縮せられたる勞働者數を包括するのである。この内には毎週一日を短縮せられ、或は毎日又は一定の日に時間を短縮せられ、給付を受けざるものは加つて居らぬ。

一九二一年四月にはこれ等の被保險者の十五パーセントのものが全然失業し、九パーセントのものが時間を短縮せられたのである。前者の比率はこの時が最高であつて、一九〇八——九年には最高九・五パーセントに過ぎなかつたのである。(J. L. Cohen:—op. cit., pp. 23-24)

次に少しくこの數字の内容に立入つて研究して見よう。これは前掲の統計とその年代を異にするが、猶ほこれによつて戰後の產業界の如何なる方面から最も多くの犧牲者を出したか、その事情の一斑を窺ふことが出來ると思ふ。一九一九年九月の The Labour Gazette によると同年八月末に於いて、百四十三萬九千七百三十一人の組合員を有する勞働組合は、その二・二パーセントの失業者を出した。この組合の組合員には軍務に從事するものを除外してゐるのであつて、二パーセントといふ數は殆んど好況時代に於ける普通の數字であるといふことが出來る。さうしてこの數字は八月二十九日に四十七萬八千八十四の失業給付證書が發行せられたこと、併せて讀まなくてはならぬ。これ等の證書は次の如く分配せられたのである。(Percy Alden:—op. cit., pp. 29-30.)

普通勞働者（男子）	八三、〇三五
少年	五、〇〇六
婦人	四九、〇三八

少女　四、〇五三
動員解除男子　三三四、九二五
同前婦人　二、〇二七

前項普通勞働者の中四萬は、第一期の十三週間の失業以後に於いても減額給付を受取つた。これによつて失業期間の相當に長期に亘るものが、約半數を占めてゐることが察せられるであらう。尙ほ前にも一言した如く、この勞働組合の統計は何等決定的のものにあらずして、これ等の失業者以外にも尙ほ多數の失業者のあることを記憶しなくてはならぬ。それと同時に二十四志受ける男子及び二十志受ける女子の少くとも或る一部のものは――給付金額は一九一八年十二月にそれぞれ二十九志及び二十五志に增加せられ、さうしてその後再び減ぜられた――若しも彼等に勞働しやうといふ意氣があれば、職業を見出すことが出來る人々であつたことも事實であると思はれる。

以上の統計に於いては當時尙ほ軍務に從事し、何れ遠からず動員を解除せらるべき多數のものが、除外せられてゐることを記憶しなければならぬ。然かるに英國から大陸の戰場に參加したものは常備兵、植民地兵、徵募兵から成るが故に、果して幾何の歸還者があり、幾何の失業者を生ずるやを攻究するには、この大なる區別を考慮しなくてはならぬ。政府は遠からず失業者の調査に著手するであらうから、これによつて事實の正確なる結果を知ることが出來れば幸福である。勞働組合の報告はこれに加入せる勞働者に限られ、近年その加入組合員は非常なる增加を見たのであるが、それにも拘らず猶ほこれに加はらぬ大半の勞働者があるのである。(Percy Alden:—op. cit., pp. 30-31)

四

失業を救濟する手段を論ずるものは、先づ失業の原因に溯つて研究しなくてはならぬ。失業の原因を明かにせずこれを諒解しないでは、失業を救濟する手段もまた不明であり、或は適切なる手段を見出すことが出來ないからである。

米國の多くの學者の採用する Seebohm Rowntree の定義するところによると「失業者とは賃銀を得るために勞働を求むるも、彼の技能に應じ、その國の標準によりて正當なりと判斷せられたる條件に於いて、何等適當なる職業を見出し得ざるものである」といふ。この定義は決して完全なものであるとは云へない。然し實際上の必要にはこれで足るのである。この定義によると勞働不適者 (the unemployables) は除外せられる。疾病または精神上の缺陷あるものも除外せられる。然しながら勞働組合が承認したる賃銀より以下の賃銀を受取ることを拒絕する組合勞働者は、低い賃銀の職業を見出すことが出來る場合でも失業の內に包括せられる。(Percy Alden:—op. cit., pp. 28-29.) 勞働不適者は失業者の內に加へることは出來ない。尤も失業のために勞働不適者となるものが非常に多いのであるから、失業問題を解決すればこの後の問題も大部分解決せられることになる。(Percy Alden:—op. cit., pp. 30-31)

また多數の臨時傭の勞働者は、戰爭前には如何なる年に於いても、その家族達を「貧乏線」("poverty line") 以上に置くことが出來なかつた。彼等は斷えず不倖なる者、不熟練なる者、十分なる能力を有せざる者、不行跡なる者の中から容易に補充せられる。彼等は慢性的に失業 (chronically unemploy) するのでなくて、慢性的に職業が不足 (chronically underemploy) するのであつて、如何なる時に於いても數週間以上に

亘る職業を有つことが出來ないのである。彼等は現代の產業狀態から必然的に發生したもので、これに就いては John Stuart Mill が至言をなして「同胞及び子孫の利得のために犧牲とせらるゝもの、利害關係が、立法者の注意を受くべき最も正當なる對象である」といふ。それは一の重要なる社會學の研究の對象であるが、此處では詳論することを避け、さうして失業とは如何なるものであるかといふ疑問に對して、姑らく前述の如き實際的必要を充す定義を採ることだけを述ぶるに止めやう。(Percy Alden :—op. cit, p. 31)

失業を救濟するために、勞働に對する需要と供給とを必然的に調節しやうとする現代國家の計畫の失敗が、根本の困難をなしてゐる。產業が何處までも擴張せられて、普通の人口增加を吸收し得るか否か明言することは出來ない。其處には勿論限度があるに違ひない。けれども既にその限度に到達してゐるか否かは疑問である。現在の人口の必要を充すために、なすべき多くの職業のある場合には、人口過剩が失業の原因であると認めることは殆んど出來ない。

產業社會に於ける現實の變動は、季節的變動 (Seasonal fluctuation) 及び周期的變動 (Cyclical fluctuation) に分けて考へることが出來る。孰れも勞働に對する需要供給の不調和をいふものである。以下この二つの繁閑動搖について簡單に述べることにしやう。

一定の職業には多忙なる季節と閑散なる季節とがある。それは季候により、或は習慣により、またその外種々の原因によりて發生する。これに就いては幾多の理論を叙述するよりも、例を以つて說明する方が問題の理解を容易ならしめるから、次にその二三の例を擧げやう。或る種の製造工業に於いては、原料の生產が季節の影響を受けるために沈衰期(dead season)を生ずる。例へば魚介、果物、野菜の罐詰業の如きものがこれである。また或る種の工業に於いては、事業の性質上かくの如き現象の起るものがある。例へば土木建築業またはペンキ塗業の如きは、一般に冬季及び天候不良なる時に閑散である。また需要が或る季節に片寄るために、その時特に多忙な事業がある。春季の衣類製造業、秋季の印刷業の如きがその例である。その外船渠事業と石炭採掘業は一月多忙で五、六月閑散 製材業は五、六月多忙で十二月閑散、家具製造業は四月多忙で一月閑散、製本、印刷 煙草製造業は十一月多忙で八月閑散といふ工合である。さうして各種の事業を通觀すれば、英國のみならず獨逸に於いても、佛蘭西に於いても、また米國に於いても、十二月より一、二月に至る冬季に閑散であつて、從つて失業者も亦この期間が最も高率を示してゐる。冬季は被服、食糧、燈火、燃料の諸費用が最も嵩む時期であるから、勞働者は冬季の失業のために生活の逼迫を最も痛切に感ずることになる。

これ等の季節的變動 (Seasonal fluctuation) に對しては、如何にしてこれを緩和すべきか。それは閑散なる時に事業を繰延べ、或は勞働者の技能を以てなし得る他の同種類の事業に從事するにある。前述のペンキ塗業者の如きは天候の不良なる時及び冬季に室內の作業をなし、または塗換を行ふやうにするのはその一例である。各種の衣服製造業者が閑散なる時を既製品の製造に利用するとすれば、これに從事する勞働者は失業を緩和することが出來るのもその一例である。次には勞働時間を短縮し、失業より生ずる損害を多數の勞働者が分擔することも一の方

法である。また閑散なる事業に從事する勞働者を、他の多忙なる事業に轉換せしめることも一の方法である。Sidney Webb の如きは最後の方法に對して、これは全然季節的變動を免れしむるものであると推賞してゐるが、然しながら事實に於いては勞働の轉換はか〻容易ではない。假りに轉換し得るとしても、統計の示すところに據ると勞働に對する一方の需要と他方の供給とは、品質數量に於いて合致しないのであるから、氏の說には贊成することが出來ない。

次に周期的變動(Cyclical fluctuation)に就いてであるが、これは現代產業組織の根本に由來する經濟的原因によつて發生するものであつて、如何なる文明國、工業國の事業にも隨伴する現象である。英國に於いては一八六六年、一八七九年、一八八五——六年、一八九三——五年、一九〇四——五年、及び最近三四年來の一般的不況時代があり、これ等の不況時代は六年乃至十年の間隔を置いて一八七二——四年、一八八一年、一八八九——九〇年、一八九九——一九〇〇年等の好況時代がある。これ等の不況時代に於いては失業者は著しく增加して、二、三パーセントより十パーセントにも達することがある。一九一二年には十一パーセント以上に達し、一九〇九年の如き不況なる年に於いては、八、九パーセントの失業者のあることは普通のことゝ考へられる。(Percy Alden :—op. cit., p. 33)

一瞥したところでは、現代の產業は自由競爭制度であつて、何等國家の活動によつて制規せられず、たゞ急激な擴張と事實上の縮少とによつて、變動するものであるやうに思はれる。然しながら需要供給の法則を永久の眞理であると考へてはならぬ。若しも周期的變動を單に生產過剩に歸するならば、現代社會制度がある場所と他の場所に於いて、一定財貨の必要及び需要を充足せしめない罪を默過するのと同じである。これ等の變動の原因はもつと深い根柢があるのであつて、單に過剩生產のみから起るのではない。さうしてこれが救濟策は、現代の產業上の秩序を根本的に改造し、自由競爭を撤廢するのでなくてはならぬであらう。然しかくの如きユートピアは容易に實現せらるべくもない。それ故に少くともその弊害を緩和する方法を見出さなくてはならぬ。多數のものが勞働市場に投出され、貧乏人の側に販路を有たない財貨その物に對する眞の需要があつて、十分吸收せられないのは不幸ではないか。國家當面の問題は如何にして眞の需要を有效ならしむるかに存する。即ち如何にして多數のもの〻消費力を增加せしむるかといふことにある。(Percy Alden :—op. cit., pp. 33-34)

失業の原因を研究するに方つては、失業が一時的のものではなくして、慢性的のものであることを記憶しなくてはならぬ。平時に於いても二パーセント以上の失業者があることは、既に前に述べた如くである。現代の產業組織は多數の豫備軍を必要としてゐる。さうしてこの豫備軍は、各種の事業に從事する勞働者から成立つてゐる。吾等の恐るるのは孰れか一種の事業に於ける過剩勞働ではない。不熟練勞働に限る過剩勞働ではない。豫備軍は各種の事業の總ての勞働者から成立つてゐる。彼等は或る年、或る季節には職業を有するであらうが、然かも需要に對する勞働の一般的正常的過剩供給があるのである。さしてそれは多少人口增加に原因してゐるのであらうが、より多く現代の產業組織のために生ずるものである。現代社會は勞働の買手よりも常にその賣手の方が多い——各人に二

の職業でなくて、二人に一の職業といふ背理を示してゐる。(Percy Alden:— op. cit., p. 34)

また失業には産業教育の不足、少年勞働及び個人的缺陷が第二の失業の原因であるかも知れないが、一定の時期に總ての事業に於いて勞働の非常なる過剰があり、正常の時期に於いても若干の過剰がある。失業は單に不熟練勞働者または勞働組合に加入せざる勞働者のみの問題ではない。それはまた少數個人の慢性的怠惰の問題ではない。ある勞働組合の調査したところによると、不況の年に於いては二十乃至四十パーセントの失業者があり、好況の年に於いても世人の想像する以上に多數の失業者があり、これ等は必らずしも個人的缺陷を有するものではない。勿論個人的缺陷を有するものは、然からざるものに比して多く失業する。然しながらこのことは決して失業の現象それ自體を説明するものではない。それ故に個人的缺陷を本來の失業の原因に算へることは出來ない。缺陷を有するものは、然からざるものに比して多く失業する。然しながら第一階級の勞働者も不況に方つては失業することを實見する。寔に失業は勞働者幷びに傭主の力を以つて支配する能はざる經濟的勢力によつて、發生するものであると云はねばならぬ。(Percy Alden:—op. cit., pp. 34-36)

次に戰後の不況と失業とを概觀し、救濟の歴史的研究と最近の施設とに就いて述べることにしやう。（未完）

ウ井リアム・モリスの共産主義（二）

加田哲二

四

モリスのマルクス主義的傾向は、前述の如くそのハインドマンとの共著「社會主義原理要領」において最も明白に表はれてゐるが、同書におけるマルクス主義的傾向は單にその歴史觀のみに止まらず、新社會の要求としての集産主義にも及んでゐる。同書が「社會主義原理要領」と呼はるゝのは、實にマルクス主義要領と云ふのと同じである。次に掲げる同書よりの引用は、この斷定の誤まらないことを立證するであらう。

「現時における吾々の目的は何か。そのあるものに就いては、既に述べた。吾々は近い將來において進んで行くと信ずる道を指示するに過ぎぬであらう。……民衆の組織並に代表の問題に就いて追及すべき唯一の目的は現在並に將來におけるすべての社會力を民衆の支配下に置くことである。吾々は土地を民衆のために要求する。地上又は地下に存するすべての有用物または美しいもののある我國の土壌が、最早小數者の權力增大と貪慾のためとに所有されないで、民衆の多數が適當と思ふやうに使用し、耕作し、享樂し、採鑛し、建築するために、すべての人々によつて集合的に所有されなければならないからである。……(p. 57)

「吾々はまた國家による鐵道の直接經營と所有とを要求する。……鐵道に對する如く船舶に對しても要求する。同樣の方法によつて全